

ひかりのこ

光の子



No.123 2007. 1. 1

● 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。

(マタイによる福音書 16:26)



謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

社会福祉法人 光の子どもの家

「雪の窓辺」

え・中島英子

「新春」

村の灯のかくれもあらず去年今年

初明りまづ墓山に及びけり

ひとすぢの川を真中に初景色

溜池に蘂しべ泛ぶ淑気かな

閑伽楠の籬のゆるびも初昔

風の沖一舟も浮べざる

初山の笹をひとつ放ちけり

黛 執(『春野』主宰)

学者もどきのつぶやき (76)

「エリアキャンパスもがみ」 の発展を祈りながら 山形大学を去る

山形大学 学長 仙道富士郎

想いをした。不徳の致すところであつたのだから愚痴は言えないのだが、突発性難聴になったり、何十年も起きていなかった不整脈に見舞われたりして、いまだに難聴の名残の耳鳴りは続いているし、不整脈の予防の薬もまだ飲み続けている。

残り数ヶ月で学長の任期が終了する。この6年間は、長い私の大学での生活のなかでも随分特異な期間だった。四二八人の受験生に影響を及ぼした山形大学の入試ミスの責任をとって前の学長が辞任したことに伴う学長就任であったが、私も随分と苦しい

残りも少なくなつたいま、ふと学長という体験は私にとって何だったのだろうかと思つたりする。大輪七〇歳にならんとしておかしな話ではあるのだが、大学の運営という経験の中で、種々の面における自分の適性や適性の無さに初めて気づかされた事も多い。一つの新しい事業を展開するとき、色々な人にそのことについてお願いしていくための手順の悪さは、一万人の人間集団の長としては大分迷惑を掛けたようだし、また一方では従来と比べて、学長室のドアを叩くのに抵抗が無かつたといった声も寄せられたりした。

私がつとも楽しく仕事が出来、これからも発展していつてほしいと思つている事業は「エリアキャンパスもがみ」というものである。こんな事を言つても皆さんには何の事やらさっぱり理解が出来ないと思われるので、解説を試みる。

私の友人に小田教授という人がいるが、彼は大変なアイデアマンで、私の学長任期中の新しい試みは、ほとんど彼が中心になつて立案したものである。若手の事務職員の研修システムを作ることを彼に依頼したところ、「地域に飛び出してみよう」というスローガンのもとに、グループ分けされた職員たちを、彼らが選択

した市町村にむかわせ、地方自治体の職員といつしよになつてプロジェクトを立ち上げる研修を提案してくれた。研修を受けた山形大学の職員たちは疲労困憊の体だったが、この中から山形大学のブランドの一つになったプロジェクトが生まれた。

最上地域は山形県の最北端に位置し、過疎化の最も進んだ地域であるが、その教育研究センター（小・中学校の先生の研修機関）を山形大学の事務職員が訪問したところ、今回の事務職員の研修のことを新聞記事で知つていた所長さんは、その教育研究センターをキャンパスとする「最上地区山形大学キャンパス」構想の詳細を我が職員に示した。実はこのセンターは財政難から閉鎖されそうになつており、所長さんはその存続に頭を痛めていたところだったのである。

プロジェクトの大きさに驚いた我が職員は、学長室に私を訪れて「サインをもらおうと、最初のプランもどこへやら、降つてわいたようなこのプロジェクトに邁進しはじめた。そして、みんなが知恵を出し合った結果、最上地域全体を山形大学のキャンパスと見立てるといふ壮大な構想に到達し、「エリアキャンパスもがみ」と命名した。今年は、200名以上

の山形大学の学生が最上地域に出かけていつて、種々の分野で活躍している最上の巧たちから、実地体験型の講義を受けている。このプロジェクトは全国的にも注目され、いまや山形大学の顔となつた。

若い事務職員のがんばりと地域の人たちの知恵の交点からこの試みが始まつたことが、私にはとても嬉しいのである。いわゆるボトムアップから生まれた事業が我が大学の顔になつたということは、それを許す文化が我が山形大学に存在していたということであらう。いま私は「エリアキャンパスもがみ」の発展を祈りながら、山形大学を去る。



新年に思う

施設長 田中 郁夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様との祈りとお支えのうちに、十二回目の新年を、幼児五名・小学生十七名・中学生七名・高校生等七名計三十六名と卒園生四名・職員二十一名と共に迎えることが出来ました。心から感謝申し上げます。

私事ですが、今までと違った立場で新年を迎えることとなり、今一度思いを新たにしております。

何よりもここに集まってくる子どもたちの全てが、ここでの出会いを感謝し、喜び合える時間にするために出来ることを精一杯して参りたいと心より願っております。

高校生が、自分の今後について、担当者・指導員と一緒に相談に来ました。このところ激増を続ける虐待の背景の一つとなっている、産むことが出来ても育てることの下手な親の元で、厳しいネグレクトと親戚中を渡り歩き、すでに思春期に入ってから来た子どもです。

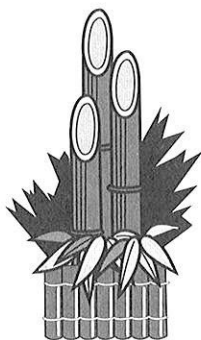
ネグレクトの特徴の一つである自分だけに注目を集め愛情を独占したいという典型的な子どもでした。その表現は荒々しく、周囲の子どもたちや大人を巻き込んで、時には大立ち回りをすることもありました。当初の心配を相当程度克服し、高校卒業と県内の優良企業に就職が内定するまでに成長しました。本人の努力と、日々正面から彼に対応し関わり続けたとりわけ担当保育士及び道半ばで辞した職員などの関わった全ての大人たちに感謝を表したいと思えます。彼の親戚の方も、親と同じような人生を歩むのではないかと心配していましたが、ここまで成長したことを聞いて、感謝の言葉をいただきました。しかし、彼にとってはこれからが大変なのです。これからの自分の生活拠点についての不安が私たちへの相談のほとんどでした。

彼の場合は高校卒業と同時に措置解除になりました。「光の子」一三号で菅原が「社会的養育は社会的自立まで」の中で触れているように、厚生労働省児童家庭福祉課長通知では「措置解除後、大学等に進学する児童への配慮について」進学等をする者について措置解除後も施設で生活することを生活費を支払うなどの条件を付して認める。」というこの通知によって進学や就職して社会的自立を志す者に、措置延長利用の道を塞いだのです。ここで暮らすには、措置解除と生活費の負担が前提となつているからです。措置延長の可能性とは、身体・精神・知的に著しい障害を持った者に限られてしまつたのです。だから、措置延長が認め

られるのは非常に難しいのです。帰る家もなく、生活全体については未熟そのものであり、自立にはほど遠い状態の彼です。その意味で彼にこそ措置延長による丁寧な関わりと、数年後の社会的自立を目指す支援が必要なのです。

彼は不安な顔で「もう少し居させてください」と願いました。私たちの仕事は子どもたちが自立するための支援を行うことが本来の目的です。職員会議で検討し、彼を社会に送り出すにはもう少し時間と支援が必要だと判断し、ここで一緒にやることを確認して伝えました。彼はすてきな笑顔で「ありがとうございました」と、頭を垂れました。

頑張れ十八歳！私たちも君たちが必要なだけ伴走を続けるために全力を挙げるからね。



二つの川柳から

彫刻家 中島 陸雄

毎日新聞で川柳の欄を見ていたら、面白い作品に出会った。

久喜のたつくんと言う人の作だが、《ブランドで全身決めてお下品に》というのである。思わず吹き出してしまった。老いも若きも競い合ってブランドものを身につけようとしているという訳では決してないのだから、やはり、持つ人の人間と品物が合っていないければ、チグハグになっってしまった感じが目につくのだろう。満足しているのは御本人だけで、第三者の冷静な目には、むしろ滑稽に映る。この句はそう言っているようである。

ブランド物と言えば、一つの思い出がある。大分以前の事になるが、私はイタリアへ旅行した。京都からやって来たという若い男性Nさんと飛行機の座席が隣り合わせになった関係で、何やかやと付き合うことになった。Nさんは、イタリアの或る有名ブランドのバッグ類をたくさん買い込んだ。大きなカバンを買って、その中に幾つも幾つものバッグを詰め込んで日本へ送るのである。このブランドのバッグは、日本で

は大変好まれていて、これを日本で売ったらこの旅行の飛行機代くらいは出てしまうんですよと言っていた。そして、それに付け加えたNさんの言葉、《日本では、猫も杓子もこのバッグを欲しがるんですよ》これである。

品物を買って下さるお客様を、猫とか杓子とか言っているNさん自身の腕には、それこそ有名ブランドの腕時計が光っていた。もしかしたらNさん自身が猫であり杓子であったのかも知れない。

ブランドの句のそばにあった鹿児島の西ノ原仁という人の川柳も目を引いた。

《地価上がる記事を読んでもホームレス》

ホームレスの人には、地価の上がり下がり関係ない事なのだろうが、やはり自分のブルーテントの所在地の地価は気になるものなのかも知れない。

以前秋葉原の駅のそばに、大きな青果市場があった。学生時代、私は夏休みにその夜警のアルバイトをした事がある。

学生アルバイトの二人と、本職のおじさんと三人で、一晚中市場の警備にあたるのである。その時に知った事だが、青果市場の近くのコンクリートの壁の下に、ダンボールの箱や古材などで作った小さな住まいに寝起きする人がいたのである。その頃はホームレスという言葉はなかったが、この人の居場所は、東京の一等地に近い、地価の高いところだったと言えるかも知れない。身なりも比較的サツパリとしていて、何よりも驚いた事は、毎朝英字新聞を買ってきて読んでいる事であった。

当時勉強中である筈の私は、何事も英語を教わった。毎朝英字新聞を読むダンボール小屋の紳士を見るたびに、劣等感に襲われたものである。あの人の頭の中には、おそらく国際情勢の変化や、日本の置かれた立場などに関して溢れる程の思考や意志などが渦巻いていたのかも知れない。そう言えば、いまでも上野公園辺りにもいくつかのブルーテントが存在する。上野には美術館があるので、あの辺はしょっちゅう出たり入ったり、私もうろろする事が多い。毎年五月には私の所属する美術団体の展覧会がある。それ以外にもいろいろな展覧会などに行く為、いやでもブルーテントのあたりを通る。あそ

この住人達は、なにやら忙しそうに動き回ったり、車を引いたり、時にはベンチで議論したりしている。或る時、ベンチの二人の男が議論している場面に出くわした。

「兎に角、芸術というものは、現代の……」

と聞こえてきた。これにはドキッとさせられた。私は何十年にもわたり上野に作品を発表し続けてきたのだが、その会場に於いて「兎に角芸術というものは……」と、真正面から議論をした事はない。無意識的にそれを、青臭い議論として避けてきたのかも知れない。しかし改めて「芸術というものは……」と原点に立ち帰って考える事も、議論する事も必要ではないか、と反省させられた。

そう考えると秋葉原の人も、上野のブルーテントの人も、何か大きな理想を心のうちにひめながら、雌伏の時代を過ごしていたのかも知れない。そうでなければ芸術という大きなテーマで議論する筈はない。彼等は、いずれ何かのきっかけで、或いは新しい年の初めにでも心機一転、忍ヶ岡のほととぎすが、やがて雲居の外に大きく雄飛することになるのかも知れないのである。

続・トムソーヤたちの朝 その9

日本キリスト教団東大宮教会 永野 三恵

新しい年を迎えた。昨日に続く一日であっても一年の初めは特別な思いがする。毎年祈ることでありながら、特に今年は、子どもたちが健やかに幸せに成長できるとなりましますようにと願う。私たち大人の責任が大きく問われる一年でもある。光の子どもの家の子どもたちが

全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。
喜び祝い、主に仕え
喜び歌って御前に進み出よ。
知れ、主こそ神であると。
主はさしたちを造られた。
わたしたちは主のもの、
その民

主に養われる羊の群れ。

(詩編 一〇〇章一―三節)

東大宮教会の教会学校に出席するようになって、もう二十年余り。最初の卒園生は三十歳となった。子どもたちとの長い付き合いが続いている。初めて三十名の子どもたちを迎えた教会学校は、教師も子どもたちもパニック状態だった。

神さまから、一度に三十名の子どもたちをプレゼントされたにもかかわらず、教会も教師たちもその大切なプレゼントが余りに大きく、自分たちの今までの尺度では測りきれずに困惑し、なす術を知らなかった。それぞれの過去を背負ってきている子どもたちも、何をしに教会へ来ているのか解らなかった。『絶対的な存在者の前に頭を垂れる』とか『聖書のみ言葉に耳を傾ける』など、彼らが過ごしてきた今までの生活では経験しなかったことだった。

腕白盛りの子どもたちはちっともじっとしていない。興味のあることにすぐ反応してしまうのは、今も昔も変わらない。ちょうど三十名のトムソーヤが一堂に会した趣きがあった。と、私が記したことから、この「光の子」の拙文の表題を、前施設長の菅原哲男氏が「トムソーヤ達の朝」と付けて下さったのだ。

現在は三十六名のトムソーヤ達が毎週元気に教会学校へ通っている。

幼稚科は五名、小学科は十八名、中高科は十三名だ。日曜日の朝、教師たちは、子どもたちを暖かく迎える。幼小科の子どもたちが澄んだ声で賛美歌を歌い、小さな手を合わせて祈る姿は本当にかわいらしい。子どもたちは正直だ。説教がつまらないと思えば、天使からたちまち元気なトムソーヤに変身する。

中高科の子どもたちは、相変わらず自分を素直に出せず、礼拝に関心のないポーズをとったり、時には居眠りのポーズもとる。だが彼らの内面は、毎週礼拝を守り続けていることで変えられていると、私は感ずる。しかし、中学生になってから光の子どもの家へ来た子ども達の心の傷は深い。心の中では愛を最も求めているも素直に出せず、自分の殻に閉じこもってしまう。彼らと心を通わせるのは難しいと思う。

彼らと毎日暮らし、その生活の中でしっかりと受け止め続けている保育士、指導員の方々の働きには、いつも頭が下がる。そうした職員の方々の地道な変わることのない支えが、鍵をかけた彼らの心の扉を少しずつ開けていくのだ。

そのようなことを再確認する機会があった。

昨年の秋、一通のメールが私に届

いた。「中学校卒業五十年記念同窓会へどうぞ」というものだった。「えっ、五十年。半世紀も経ったのかしら……」という思いと、「行かなければ」という思いが私を捉えた。

ある秋の一晚、故郷の浜松で私たちは再会した。お互いに中学生時代の面影を見つけ出し喜び合い、思い出話や現在の生活の様子を語り合った。ひとしきり近況を伝え合うと、やはり今の子どもたちを取り巻く状況に話題は移った。

ジャーナリストとして活躍しているM氏は、政治や経済面からの変化を指摘した。経済主義と競争原理、効率化や成果主義により、人間同士の触れ合いや、仲間同士の連帯や旁りが失われ、子どもの世界にまで広がってしまったと分析した。

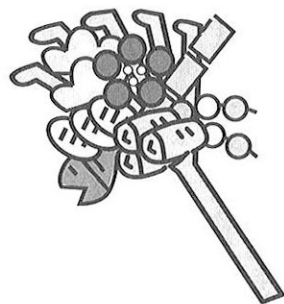
その指摘は私の視野を広げてくれた。しかしどのような社会になろうとも、人の内面を支える価値観をしっかりと形成していく事こそ、社会の変化に耐えていく為に必要だと、私は思う。

教会学校の子どもたちとは、一週間のうちの一時の間のみという点のようない交わりだが、これからの「一年も「光」や「塩」としての働きを担っていきたい。

迎春 明けまして おめでとうございます

今年もよろしく おねがひいたします

新年明けましておめでとう
ございます。
いつも暖かいご支援を心よ
り感謝申し上げます。
朝ごはんの後に、昼ごはん
の心配をしなくてもよくなっ
た安心は、大きくなって、き
つと子どもたちも、感謝する
と思います。
光の子どもの家のおばちゃん



遠藤めぐみ

新年あけましておめでとうござ
います。
皆様のご支援のお陰を持ち
まして新しい年を子ども達と
共に穏やかに迎えることがで
きます事を心より感謝申し上
げます。
今年一年が皆様にとっても
幸多きものとなりますよう願
っております。

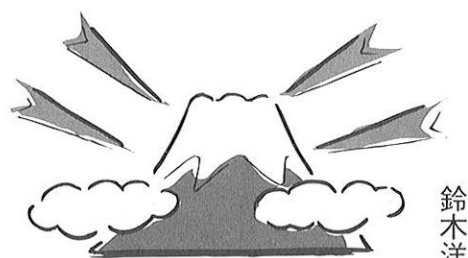
あけましておめでとうござ
います。
旧年中のお支えありがとうございました。
今年も子どもたちのより良
いくらし、より良い食生活を
守るため頑張っていきたいで
す。

平川光子

新年あけましておめでとう
ございます。
昨年皆様からの多くのご
支援、心より感謝申し上げます。
今年も子どもたちがよりよ
い生活を送ることができよう
う、努めてまいりたいと思い
ます。どうぞよろしくお願い
します。

鎌田洋子

新年あけましておめでとう
ございます。
僕はこの数年、怠惰な生活
を送ってきました。その中で
得た物といえばなまけること
と脂肪でした。2007年、
自身に次のような必要目標を
課しました。それは『どんな



鈴木洋一

明けましておめでとうござ
います。
一昨年は夏に大きく体調を
崩してしまいました。昨年は
健康を守られ、特に病氣と
いう病氣もなく過ごすことが
できました。何よりも一年を
通して子どもたちに寄り添う
ことができたことを、神様に
感謝します。
また昨年二月に結婚し、新
しい生活が始まりました。気
持ちも新たに、公私ともに励
んで参りたいと思います。

佐藤 優

どうぞ よろしく願ひし
ます。

明けましておめでとうござ
います。
みな様の温かいお支えのお
かげで新たな年を子ども達と
共に迎えることができました。
子ども達が輝き続けることが
できるように、共に彼らの人
生に伴走してまいります。
穴水祐介

新年あけましておめでとう
ございます。
私達も色々迷いながら何
とか素直な人間に育つよう子
どもたちに関わっていきます。
本年もよろしく願ひします。

五木田供三



牧野由紀子

明けましておめでとうござ
います。
新年を迎え気持ち新たに、
二〇〇七年は泣いても笑って
も：こころにゆとりを持っ
て子どもたちと過ごしてい
きたいと思ひます。今年もよ
ろしく願ひします。

田中要一

あけましておめでとうござ
います。
今年も子どもたちがよりよ
い生活をしていくために、皆
様にとっても本年も健康であ
りますように願ひしております。

井上 志

あけましておめでとうござ
います。
に小さくても、どんなに頼り
なくともいいから、イノシシ
のように前に進む。』というこ
とです。皆様のこの一年の目
標は何でしょうか？
本年も、よろしく願ひし
ます。

プリズム

原田家日記

新年あけましておめでとうございませう。

昨年もおたくさんのご支援、ご声援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年の春より、原田家は私が一番年上という、他の家に比べ若いメンバー構成で生活をしてきました。振り返ってみて心から思うことは、常に頼りなく、余裕のない私がいたことと、その私に惜しまず協力してくれた子どもたちがいたことです。

特に我が家の長女・真子は、1年前には想像もつかないほどの成長を見せてくれました。今では安心して留守番をお願いできる存在となっています。

春になると原田家では、彼女をはじめとした4人の子どもたちが入園、入学、入社を迎え、新たな生活をスタートさせます。たくさんさんの希望と不安を抱え、今まで家で使ってくれていたエネルギーも、全てを使い果たし

て家に帰ってくることでしょう。そんな彼女たちのエネルギー源となるような家づくりをしていこう。それが私の、今年の抱負です。

本年も変わらぬご支援、ご声援を、よろしくお願い致します。

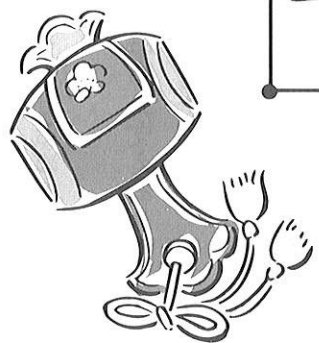
鈴木晶子

あかり窓

心理室から

新年あけましておめでとうございませう。去年が平成18年ということをなかなか覚えられないままに平成19年を迎えることになってしまいました。書類の提出期限が守れないことも増えてきて、物忘れがひどくなったというべきか怠慢になったというべきかは分かりませんが、怠惰になってしまったところにいつかは気持ちを引き締めて、また新しい年を迎えたいと思っています。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

積みどり



仙道家

新年明けましておめでとうございませう。皆様のお支えにより子どもたちと新しい年を迎えられます。本当にありがとうございます。

わが仙道家には、この冬高校受験を迎える俊哉がいます。中学三年生も運動部だと夏休み前までは活動しています。部活動のない夏休みでも「よし、勉強やるぞ!」とはなかなかいかずだらだらしがちでした。

「勉強しなさい」と言われて「はい」とやることはなかなかありません。

二期期は体育祭、文化祭と『中学最後の行事』が目白押し。熱くなってしまう。それらが

おわってもなかなか勉強に身が入らない俊哉です。自分の志望する高校に行けるように、「〇〇高校でいい」という消極的な選択でなく、前向きに取り組めるよう願う毎日です。

池田 祐子



季節のおとずれ

竹花家

新年あけましておめでとうございませう。今年も皆様のあたたかいご支援により、みんなそろって新しい年を迎えられそうです。

竹花家の子ども部屋は、子どもらしすぎる状態の中で過ごしている毎日です。そんな子ども部屋も、年末になり大片付けをしなくては・・・と、思ってしまった時期が来てしまいました。

まず、いちばん片付けセンスのない中2の百合と一緒に大掃除を始めました。初めは、ホコリとの我慢比べでノドが痛くなり、

僕自身が途中で妥協しようかと思いましたが、でも、最後には模様替えまで行い、瑞希が「これいいかも!」と言ってくれてホッとしました。あと何日この状態を保てるのか分かりませんが、いつか大きくなった時に、めんどくさいけど少しでもきれいにした方が居心地が良いなと思ってもらえたら・・・と願っています。この次の日、小学生の下川兄妹が「百合の部屋ようにきれいにしたい!だから一緒にやって!」と言い始めたので、一緒に思いっきり模様替えしていこうと思います。

守口 賢一郎

倉澤家

あけましておめでとうございませう。本年もよろしくお願い致します。

昨年末、私は彼にプロポーズされました。私のどこを気に入ってくれたのか尋ねると、私の作るカレーは世界で一番おいしいし、ラーメンもうどんもおいしい———と言うのです。どうやら私は、彼の胃袋をしつかりキ

ャッチしたようです。彼の気持ちはとても嬉しいのですが、私はこのプロポーズお受けするわけにはいかないのです。その理由の一つは、わたしには九歳になる娘がいること。そしてもう一つは、彼との年齢差が親子ほど、いやそれ以上離れていることです。しかも、彼は娘よりも年下...。そう、私にプロポーズしてくれただのは六歳の成梨です。

「倉ちゃん」と結婚すると美喜ちゃんのパパになるけど...、いいの?」「いいよ。僕が遊園地に連れて行ってやるからね、美喜ちゃん!」とすっかり父親気分です。

「成梨が大きくなる頃、倉ちゃんおばあちゃんになっちゃうんだけど...、いいの?」「うん。いいよ!」

成梨と私のやりとりを傍で聞いていた娘は、

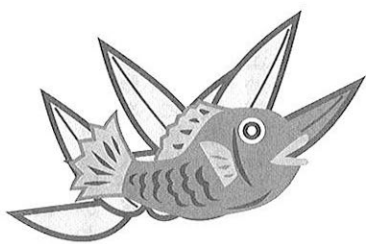
「やだー! 成梨がパパなんて絶対やだー!」

と、二人の結婚を猛反対。障害があればある程燃え上がる二人の愛——。しかし、残念ながら(!!) そんな結末にはならないでしょう。

あと一、二年もすれば、彼は「エッ? オレそんなこと言っていないよ。」

と言うに違いありません。その時、私は何人もの証人を揃え、この光の子を証拠として読ませ、嘘ではなかったことをはっきりさせようと思っています。

倉澤 智子



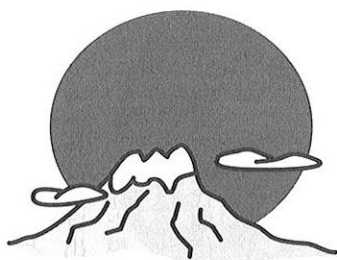
佐藤家

新年明けましておめでとうございませう。昨年の一月に初めて光の子どもの家でお正月を迎え、今年も頑張ろう...と思っていた頃から一年が過ぎました。

過ぎてしまえばあつという間でした。何もできていない私を置いて、子どもたちは大きく成長していったと、昨年来を振り返

ってしまいます。心も体も大きくなっていく子どもたちに対し、クリスマスアドヴェントから体ばかり大きくなっていく私は、おせち料理やおもちを食べてさらに体が大きくなるばかり(もつと前から...). 新年を迎え、子どもたちが勉強を頑張る等の抱負を言うだらう元旦に、私はきつと ダイエットを成功させたいです。とくだらない事をいつてしまひそうです。

田口 貴子



家族に関わる

菅原 哲男

謹賀新年。これまでの応援に感謝します。今年もこれまで関わりながら考え追求してきた児童養護施設における家族関係への関わりについて更に探求して参りたいと考えております。その一端を本欄などにで明らかにしていくつもりです。ご批判・ご叱責やご意見など旧年に倍していただけますようお願いいたします。

端枝きょうだいは年度が開けた花見の頃のある日の午後、兄のひと妹の花子、そして父親が同道して入所してきた。三十代後半の長身の父親は暴力団に関わっていたが、母親の病死を機に組から抜けたと児童相談所からの記録や説明にあった。児童相談所ではそのような父親の履歴に關してはそれほど関心がなかったようである。

児童相談所への養護相談などではそのようなケースは珍しくはないのだろう。そう言っている光の子どもの家でもそのような家族を負っている子どもは少なくもないのだが・・。しかし、どのような父母や兄弟と暮らしてきたのかは、その後の暮らしをつくっていくについてかなり大

きな要因でもあるのだ。暴力団やチンピラなどの暮らしの様式は子どもにそれと同等で大きなマイナス要因として影響を与え続けることになるからである。

俗に、「子どもは親の背中を見て育つ」と言われる。特に父親について言われてきているのである。その父親がどのような生き方をしてきたのかは、これまでも、そして現在も無視するには大きすぎる影響を与え続けるのである。

少し横道に入るが、我が国のマスコミや大学などを中心に、本当に多用されることなのだが、いわゆる世代間伝達という統計学上の論理が児童虐待に特化して語られることである。スポーツや職業など親と同じ道を辿る人々にはそう喧しくはないのだが・・。子どもたちがその夫婦がつくった暮らしの中に、ある日生まれ出で、それから今日までの全ての時間をともに形成してきたのである。影響を受けやすい方がおかしいのである。

児童養護施設を利用する子どもたちの多くもかなり親の職業に近接した職業に就く者が多かった。今はそれほどでもないのだが。しかし、そ

れ程でもなくなった代わりに、適性でないとか思えないのにもかかわらず、対人関係に関する職業を目指し、現に就いている者が増えつつある。これは、暮らしをともにする大人が保育士であり、児童指導員であることが大きく影響しているものと思われる。

児童養護施設の子どもの多くの対人関係が下手である。下手どころか障子とさえ思える者が少なくない。それは、彼らの親たちがまことに世渡り下手なことによっているとした考えられないのである。いわゆる変人扱いされかねない人が多い。人間関係がスムーズに運ばないから、職場でも、そこで派生したごく少ない人間関係によって作られることがほとんどどの自分たちの家庭でもうまく事が運ばなかったのである。

そこで、前述の、虐待を受けた子どもがやがて親になると虐待する、という虐待に特化した世代間伝達論なのであるが、これはただだけではない。この論理から誰が利益を受けるのだろうか。受ける者がいるとすれば、その特化した論理をもつてもう一つの論理を造り上げて、まことしやかな心の闇などという言い方で一冊本をものにして口を糊している学者たちに違いない。そしてそういう輩が

学者に多すぎるのである。

この論理を表すには、延々と続く負の連鎖からどうすれば抜け出すことが出来るのか、その方途を説いてこそ値打ちがあるものになるのである。わずかに「母子臨床と世代間伝達」を表した渡辺久子慶応大学医学部講師が臨床例を提起しながら説き始めばかりである。それでも、児童養護施設などのその大半が被虐待の子どもたちで密集する暮らしの場面では、まだ参考としても役立つのに苦心しなければならぬ状態なのである。

ここで、端枝きょうだいは児童相談所段階では虐待が入所理由にはなっていない。母親の病死による養育困難がその理由であった。

長女の花子は入所後間もなく進行性筋萎縮症が発症して入院治療を受けることとなった。その後他の訓練や治療が可能な施設に措置変更されていった。

長男のひとがここに残って生活を続けることになった。

入所してしばらくはそれ程問題は見られなかった。しかし、担当保育士の記録にはかなり大変な背景が窺われる記述があった。

まず外遊びが出来ないのである。ゲーム以外に興味が無かった小学四年生だったのである。

現場から

続・光の子らしく

(24)

岩崎 まり子

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしく申し上げます。

「俺、夏休みもクリスマスも好きだけど、やっぱりお正月が一番好きかも」と中二の誠が言うと、

「理奈も！」

「丘実も！」

「うちの子どもたちは、こたつに入ってぬくぬくのんびり出来るお正月が大好きです。思い起こせば二十二年。ここで初めて迎えるお正月をどうというイメージで過ごすかということも会議で話し合っていました。」

その時から覚束ないながらも一生懸命になって「のんびりしよう、のんびりしよう」とやっていたことが何となく様になつてきたように思います。お正月と言えば、元旦まで仕事をしってきたと言う卒園生がこたつでトドのように寝そべっているのを眺めるのも、帰り際に手作りののし餅やおせち等を、

「ほらほら、持って行きなさい。」

等と持たせるのも、ほんの少し自分が一人前のおばさんになったような気がして好きです。中身は二十年前とそう変わらず、半人前なのですが、けれど、のんびりばかりしていられないのは、お正月からお盆同様、家

族の色の濃くなる時期だからです。

親の家には帰れない、帰らないと決めている子どもたちにとっても、帰れる子どもにとっても複雑な思いを抱えます。

入所して八ヶ月、久しぶりに親子で二泊ほど過ごした夏、由子が荒れました。

目つきが鋭くなり、小さな注意に対しても敵意をむき出し、物を言わない代わりに睨む、無視する。挙げ句の果てに友人を振り回し、なかなか帰ってこず、

「帰りたくないって言ってます。」

等と友人から連絡がある始末。

由子にとっては「ここに居ること」、親にとっては「子どもを預けていること」に納得できず、無自覚なままであるという状況に対し、どこにどう向けたら良いのかわからないまま

無性に腹が立ちました。

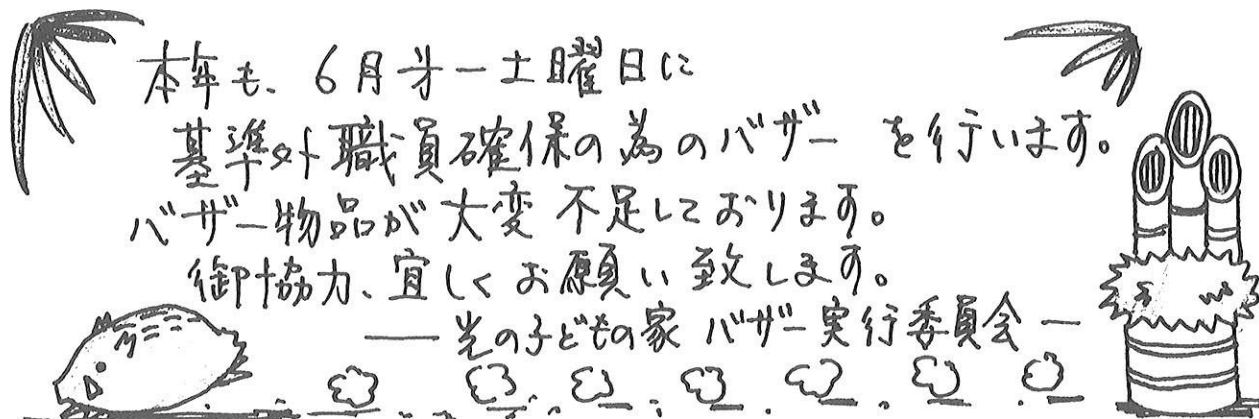
けれど、私には分かっていました。何よりも誰よりも、由子にとつての「居場所」をつくってこれなかった、私の責任であるということでした。

あれから数ヶ月、かわいいただけでは済まない彼女を抱きしめ、大いに世話を焼き、反抗的な顔を知らんふりで過ごし、時にはワーワー言い合ひもしながら過ごしてきました。とにかく一緒に居ること——できるだけ毎晩毎晩、眠っている間は特に、同じ屋根の下で、一軒の家のなかで一緒に居ること——それが一番大事なことでたと信じてやってきました。

今は落ち着き、笑顔であのときを振り返ることも出来る私たちです。そして、あのときの体験は、まだ出てくるとは言い難い由子の親とこちらとの関係作りに必ず役に立つだろうと思っています。よい帰省になるようお願いいたします。

繰り返しのような毎日積み重ねられることで何かになるということは、卒園生たちが教えてくれました。たくさんの人々の思いが詰まって「今」があること、その感謝を忘れず、この一年も励みたいと思います。ご指導よろしく申し上げます。





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 11月1日 ▶ 2006年11月末日

- 2日 高三の真子就職のための面接へ
中学二年初頭からの入所で生活と教育機関での訓練を経て出発に向けて厳しい試練が続く
- 3日 第二回感謝の集い及び第八回理事会
今年もたくさんの方々々が秋晴れの武蔵野の風景の中で交歓 山ノ下恭二理事による感謝礼拝と大利根町町長大利根町議会議長教育長などのご挨拶をお受けし永野三恵・大塚太美両氏に感謝状を贈呈しお祝いの会を楽しく親しく和やかに
- 6日 越谷児童相談所一時保護所の職員4名来訪して見学と交歓のひととき
○ さいたま児童相談所児童福祉司2名来訪
情報交換と担当の子どもたちと面談
- 8日 千葉県愛恋園より施設長及び職員11名来訪して見学と情報交換
- 10日 長いこと行っているアメリカカルフォルニア大学からの受け入れ研修生だったトニーが大学を卒業して就職し、初めての休暇で来日
3年ぶりに光の子どもの家に来て子どもたちと再会 日本にきたいと!
- 11日 養育を語る会 菅原出席
- 12日 東大宮教会で幼児祝福式
小さな子どもたちが晴れ着を着て教会員一同から祝福を受けるおみやげも!
○ 真子就職内定通知を受ける
光の子どもの家では在籍期間中の携帯電話を禁止している 携帯のサイトでの特に性犯罪に巻き込まれる件数が毎年倍々を超える勢いで増加している。心などが弱い子どもがこの犯罪の被

- 害者にならないために 一番大切にしている「一番弱い子」をみんなで守るために携帯を持たないことにしようと 高三になって就職や進学などの進路が決定した者に施設長がお祝いとしてプレゼントしてきている 携帯の使い方を訓練するために早くも真子がせがみ始める
 - 19日 宗太の家族は今幼児小学生3名と母親の5名である母親は稼働しながら宗太以外の3名を養育している。光の子どもの家とはかなりの遠距離にあることから来訪も途絶えがちこの日の午後宗太を連れて小西指導員が家庭訪問 宗太を家族に渡して3時間ほど時間を過ごして迎えに行くその折りに、母親が宗太を愛せなくなったいきさつなどを小西指導員に苦しかった胸の内を問はず語りをした 家族との日常的な関わり成果
 - 24日 熊谷児童相談所 ワーカー3名が来訪し子どもやその家族に関する情報の交換と今後の方針などの協議や確認
 - 25日 長く続いている地域の愛育会と後援会主催の昼食会 地域のお母さんたちが心を込めて作ってきたごちそうと一緒に頂きながら歓談のひととき
 - 27日 原道小学校職員との連絡会 お世話になっている子どもたちが普段家では見せない学校での横顔や風景を確認して 学校と家での暮らしの豊かさにつなげる 思いがけない健気さやまともさの報告に担当者の顔がゆるむ
- <11月の物品ご寄贈>
山中 原田きよし 渋谷澤 加須ヤクルト 大村真理 榎 南条喜三郎
斉藤康光 蛭間アサ 池端寛 岡本雅路 日本キリスト教団岩槻教会
江森百合子他多数の各位様 感謝
こんな暮らしを紡ぎながらクリスマスお正月へと向かいます 感謝 (くら)

反 射 光

☆謹賀新年☆おかげさまで今年も子どもたち職員一同気持ちも新たに正月を迎えることができました☆「光陰矢のごとし」であつという間に流される中に大切な暮らしがあることを忘れずに時には立ち止まり振り返りつつ前進していきます☆昨年を象徴する漢字「命」であるように悲しいニュースが相次ぎました☆子どもたちの「手本」「目標」になり得ない私たち大人の状況の中に今の子どもたちが引き起こす問題があります☆「わからなければ何をしてもいい」「ルールを破れば得をする」ことのおかしさをどう伝えるのが問われます☆大人の問題でこの家に辿り着くに至った子どもたちが夢や希望を強く持つて生きることができませんように☆皆様にとって良い年でありますように☆今年もどうぞよろしくお願ひします。

(のぶ)